



(3) 近年、日本において「誰もが楽しめる博物館」という意味合いにおいて( )  
という言葉が使われている。初出は1998年の神奈川県立生命の星・地球博物館のシン  
ポジウムであったとされているが、その後、国立民族学博物館や各県立博物館等、様々  
な博物館や美術館において( )をテーマにした展覧会や講演会が開かれている。  
( )のコンセプトにおいては、年齢や性別、障害の有無に拘わらず、来館者が  
作品に触れることを通して芸術鑑賞や自分自身や社会を見つめ直す機会を提供するこ  
とが意図されているといえる。

- ① バリアフリー・ミュージアム ② インクルージョン・ミュージアム ③ ユニバーサル・ミュージアム

(4) ( )は『美術愛好：ヨーロッパの美術館と観衆』という著書において「人はな  
ぜ美術が好きになるのか」を基本的なテーマとして、美術館に足を運ぶ人と運ばない  
人、楽しめる人と楽しめない人について学歴や学校教育、家庭環境による影響等につ  
いて大がかりな調査を行い、それを元にその関連性や文化資本の効力について記して  
いる。

- ① ピエール・ブルデュー ② エドワード・サイード ③ カール・マルクス

4. 次の(1)～(4)の文章のうち、それぞれ正しいものの記号1つを選びなさい。  
(各5点)

(1) レコメンデーションエンジン(ICT)について

- ① 顧客に合わせたサービスをお勧めすること。  
② 属性や過去の利用履歴などをアルゴリズムで分析して顧客の好みに合うサービス  
などを提供するソフトウェアのこと。  
③ 顧客の属性や過去の利用履歴などのデータ間の関連の強さを求める手法のこと。

(2) レピュテーション(ICT)について

- ① 無差別に送付されるスパムメールや、ウイルス付きメールなどをメールやファイ  
ルの特徴や機能から排除する手法のこと。  
② 人による判断を組み合わせて総合的に評価することで悪質なスパムメールやウイ  
ルス付きメールなどを排除する手法のこと。  
③ 様々な情報を組み合わせて総合的に評価することで悪質なスパムメールやウイ  
ルス付きメールなどを排除する手法のこと。

### (3) 文化遺産に関する保管や検索について

- ① 2020年8月25日に国立国会図書館が運営する日本の分野横断型文献検索サイトとしてジャパンサーチが開設された。ジャパンサーチは、デジタルアーカイブジャパン推進委員会及び実務者検討委員会の指導のもと、国立国会図書館が開発及び運営を行っている。2020年8月25日の公開時点においては日本放送協会や国立公文書館、国立国会図書館など計23組織のデータ2100万件が使用可能であった。2022年8月現在、連携機関は34、連携データベースは176にまで増加している。
- ② 1952年6月6日に国立近代美術館が開設され、その中に映画事業（フィルム・ライブラリー）が開始された。その後、1970年に東京国立近代美術館フィルムセンターに改称し、現在も同様の名称で、東京都中央区京橋に本館、神奈川県相模原市に相模原分館を運営し、両館において公開上映や展示、映画フィルムの保管や補修、様々な映画情報の検索ができるサービスが行われている。
- ③ 文化遺産オンラインは2008年3月に国内の美術館・博物館等に収蔵されている文化遺産のデータを広く収集し、インターネット上での総覧を可能にするポータルサイトとして公開された。サイトの運営は、文部科学省と東京大学が共同で行っている。2022年9月時点の参加館数は1,044館、公開作品件数は273,252件である。

### (4) 新聞の歴史について

- ① 江戸時代には「瓦版」と称される一枚刷りの木版画が存在した。街頭で読み上げながら売られることも多く、天変地異や大火、心中などの庶民の関心事を報じたものが多かった。
- ② 明治時代初期の新聞は、政論中心で知識人を対象とした「大新聞」と娯楽中心で一般大衆を対象とした「小新聞」に分かれていた。知識階級向けの大新聞には、横浜毎日新聞、東京日日新聞、郵便報知新聞、朝日新聞などがあつた。庶民向けの娯楽を取り扱った小新聞には読売新聞、仮名読新聞などがあつた。
- ③ ジャパン・ヘラルド社は1863年に日本で最初の日刊新聞「デイリー・ジャパン・ヘラルド」を発行した。同紙の発行部数は20000部程度であつたとされている。その他に、「ジャパン・ウィークリー・メール」や、日刊夕刊紙「ジャパン・ガゼット」などの外国語新聞が横浜で発行されていた。

5. 以下の用語から**2つ選択**し、解答用紙に選択した用語の(1)～(4)の番号を記載のうえ、その内容を簡潔に説明しなさい。なお、3つ以上回答した場合は無効とする。(各10点)

(1) チャットボット

(2) メタバース

(3) 生成 AI (ジェネレーティブ AI)

(4) サイレント・マジョリティー